

6 原子力災害からの避難

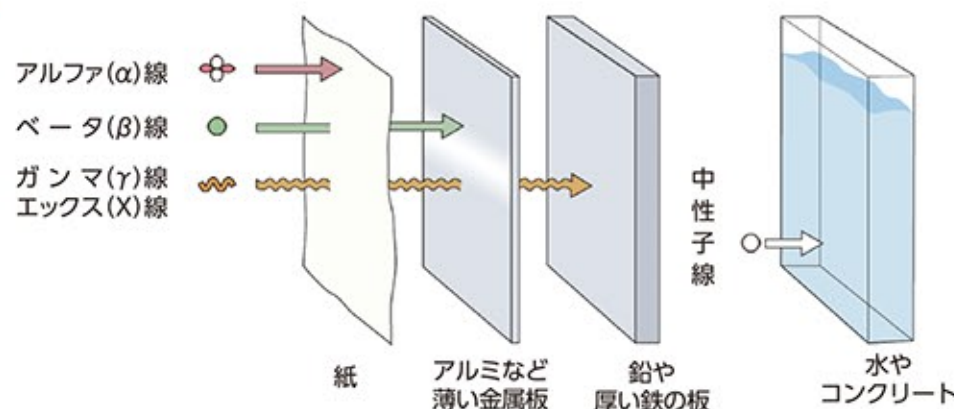
- 放射線は見えたり、匂いがしないので、被ばくをしても、五感に感じることはありません。
また、被ばくの程度を自分で判断することはできません。

「放射線」の特徴を知って、避難に活かしましょう。

- 物質を通り抜ける能力「透過作用」があります。能力の強さは、放射線の種類によって異なります。

放射線の中で強力な「中性子線」は、水やコンクリートを通しません。

→ **コンクリートの建物に避難することで、被ばくを抑えることができます。**



- 距離があるほど、受ける量は減ります。

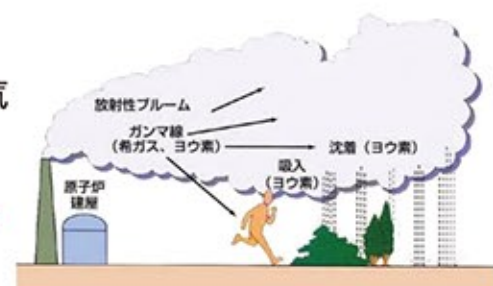
放射線の量は距離の二乗に反比例して減ります。放射性物質からの距離が2倍に離れると、受ける量は4分の1になります。

→ **風向きにもよりますが、泊発電所から離れるほど、放射線量が減少します。**

- 放射性雲（プルーム）が発生することがあります。

原発事故などにより飛散した微細な放射性物質が、大気に乗って煙のように流れていくことがあります。

→ **避難時は外の空気が入らないようにします。
雨には当たらないようにします。**



- 時間がたつと、だんだん弱まります。

放射能は時間が経つと弱くなり、放射線の量は時間とともに減っていきます。

→ **放射能を受けても、体内に残る時間は、種類によって異なります。**

※ **日頃から、空間放射線量率を測定しています。**

放射性物質が放出された場合の防護対策の判断を行うため、町内7箇所に緊急時用モニタリングポストが設置されているほか、町内2箇所に、通常時の放射線量率を継続的に測定・確認するためのモニタリングポストが設置されています。

(1) 原子力災害が発生したときの、避難先・避難方法

▶ **町全域**が「泊発電所から概ね30km圏内の地域」(緊急防護措置を準備する区域/UPZ)です。

▶ 泊発電所で事故などが発生した場合、とるべき行動などを速やかにお知らせします。
うわさや憶測に惑わされず、国・北海道・町からの情報に注意し、落ち着いて行動しましょう。

警戒事態(EAL1)

- ・後志管内で震度6弱以上の地震が発生

○テレビ、ラジオ等からの報道以外に、町から、IP告知端末機・屋外拡声機・携帯電話メール・広報車等を通じて、状況をお知らせします。

報道や町からの知らせを聞き、指示に従いましょう。

施設敷地緊急事態(EAL2)

- ・発電所の外部電源が途絶
- ・原子炉の冷却機能が低下

○町は、屋内退避の準備をはじめます。

全面緊急事態(EAL3)

- ・発電所の全電源が途絶
- ・原子炉への注水ができない

○町は、屋内退避を指示し、誘導します。

自宅から一旦、岬の湯しゃこたんへ集合します。

- ・徒歩または車で集合します。
- ・安否確認、避難する場合「何で避難するか」「どこに避難するか」「連絡手段」などをとりまとめます。

○町は、放射線の量を測定、放射能物質の放出の有無を確認します。

○町は、避難を指示し、30km 圏外に誘導します。

自家用車が避難バスで避難します。

- ・自家用車の人は、連絡先を伝えてから避難します。
- ・道路が寸断し孤立した場合は、船やヘリコプターで避難することもあります。

途中、避難退域時検査場所で検査等を受けます。

- ・放射性物質が付着していないか検査し、付着していたら取り除きます。

○30km 圏外に避難します。

一次滞在場所は「札幌市西区体育館」(札幌市西区発寒5条8丁目9番1号)です。

- ・避難先のホテル等に入室できるまで滞在します。

避難所に避難するか、親戚や知人宅などに避難します。

- ・避難所は、札幌市内の「京王プラザホテル札幌」「ホテルグレイスリー札幌」「東横イン札幌駅北口」「札幌ハウスセミナーセンター」を予定しています。
- ・役場も、避難所内で業務を行います。

放射性物質が放出

